



# 手形

# 使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

# 目次

1. 約束手形
2. 手形の仕訳
3. 為替手形
4. 裏書・割引



今回は私が案内するよ！

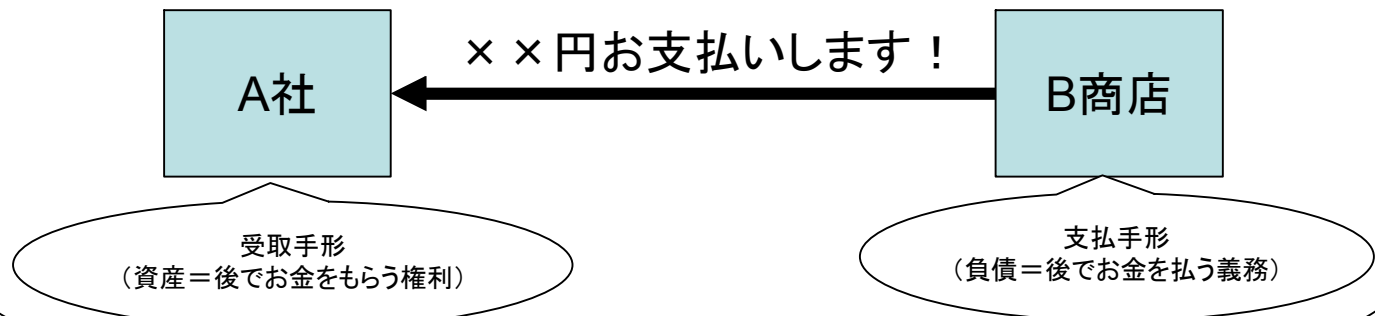
今回は手形について  
説明する。

# 1. 約束手形

約束手形とは、手形を出した人が、手形を受け取った人に対して、「〇年〇月〇日までに、××円お支払いします」と約束した証券のことだ。

手形を振り出した方は**支払手形**（負債）、  
手形を受け取った方は**受取手形**（資産）  
となるんだ！

図で見ると、こういうことだ。



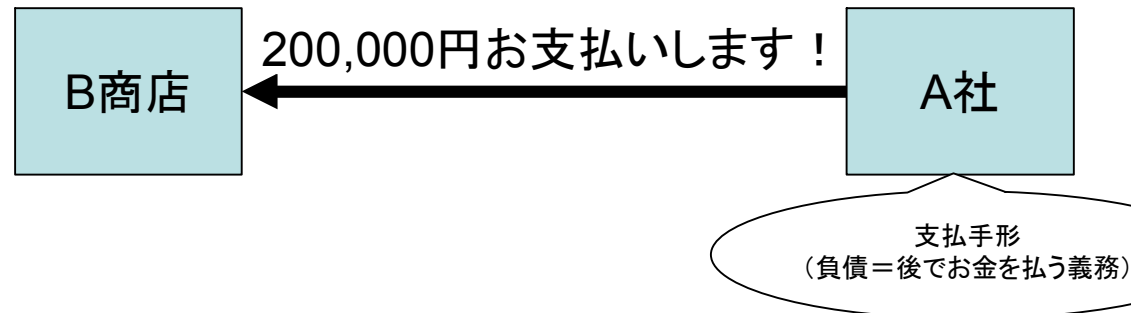
## 2. 手形の仕訳

それでは早速、約束手形の具体的な仕訳を見ていこう。

- ① A社はB商店から商品200,000を仕入れ、代金はB商店宛の約束手形を振り出して支払った。

(借方) 仕入 200,000 (貸方) 支払手形 200,000

A社から見た取引はこのような図になる。



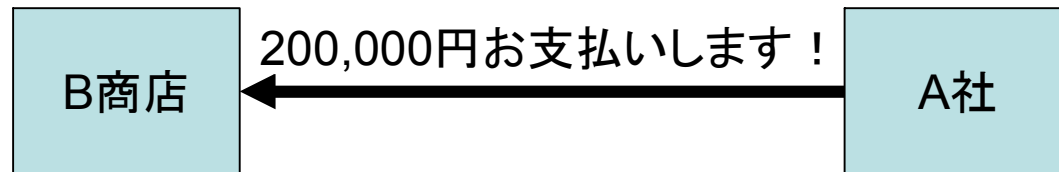
## 2. 手形の仕訳

次に、B商店の側から見てみると

- ② B商店はA社に商品 ¥200,000を売上げ、代金はA社振出、B商店を名宛人とする約束手形 ¥200,000で受け取った。

(借方) **受取手形 200,000**      (貸方) **売上 200,000**

B商店から見た取引はこのような図になる。



受取手形  
(資産 = 後でお金をもらう権利)



## 2. 手形の仕訳

次に、支払期日が来て、支払ったときの仕訳だ。

- ③ A社はかねて仕入れた際に振り出したB商店宛の約束手形  
¥200,000の満期が到来し、当座預金口座から支払った旨の連  
絡を取引銀行より受けた。

(借方) **支払手形 200,000**      (貸方) **当座預金 200,000**

負債の減少

資産の減少



## 2. 手形の仕訳

最後に、支払期日が来て、受け取った時の仕訳だ。

- ④ B商店は、かねて取引を依頼していたA社の手形¥200,000が支払期日になり、当座預金に代金¥200,000が入金された旨、取引銀行から通知を受けた。

(借方) **当座預金 200,000**      (貸方) **受取手形 200,000**

資産の増加

資産の減少

一連のイメージはつかめたかな？



# 3. 為替手形

さて、お次はちょっと複雑な為替手形だ。  
為替手形とは...って説明しようとしたんだけど、文字で書くと複雑なので、身近(?)な具体例で説明するよ。

登場人物は



ペンギン君



アザラシ君

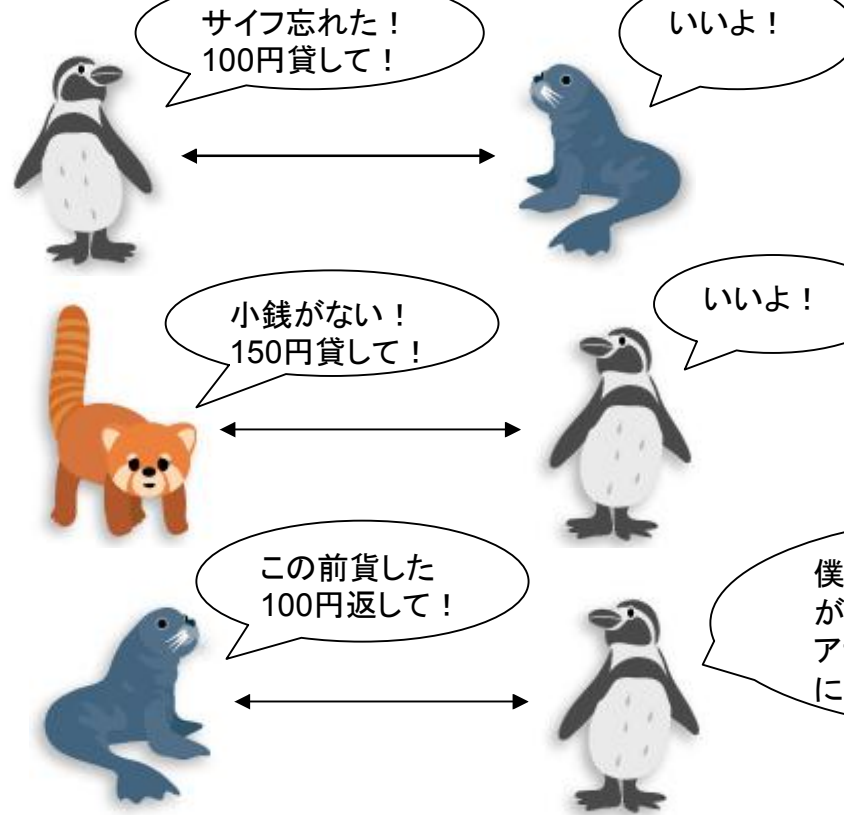


レッサー君

友達の間係をイメージしながら、サーっと理解して欲しい！



# 3. 為替手形

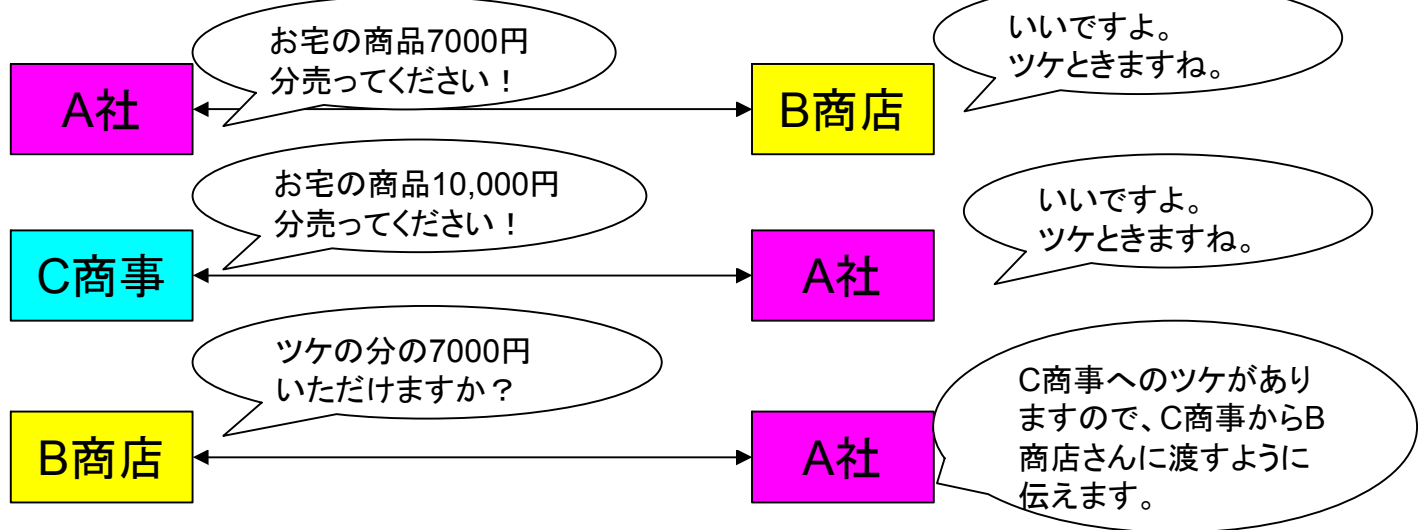


これが為替手形のイメージだ！



# 3. 為替手形

これを企業の関係に置き換えなおすと、次のようになる。



わかったかな？




# 3. 為替手形

ここで、為替手形について、再び説明してみる。

為替手形とは、手形の作成者(振出人という)がその債務者(名宛人という)に対して、手形に記載した期日に、手形に記載した金額を**第三者(指図人)に支払うことを依頼した証券**

なんだ。



僕レッサー君に150円の貸しがあるから、レッサー君からアザラシ君に100円渡すように言っておくよ。

A社

C商事へのツケがありますので、C商事からB商店さんに渡すように伝えます。

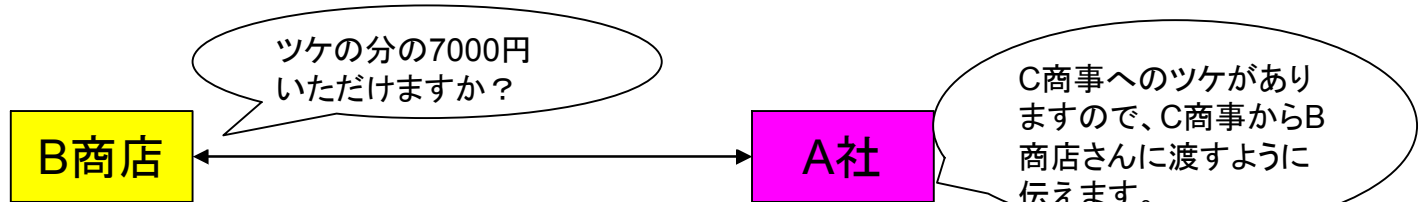
この時は、ペンギン君、A社が為替手形を振り出したことになる。では、具体的な仕訳を見ていこう！



# 3. 為替手形

動物の例でも、企業の例でも、2つめまでは1対1の、ごく普通の取引だと言うことはわかると思う。  
ここで学ばなければいけないのは、3つめの仕訳だ。

つまり、

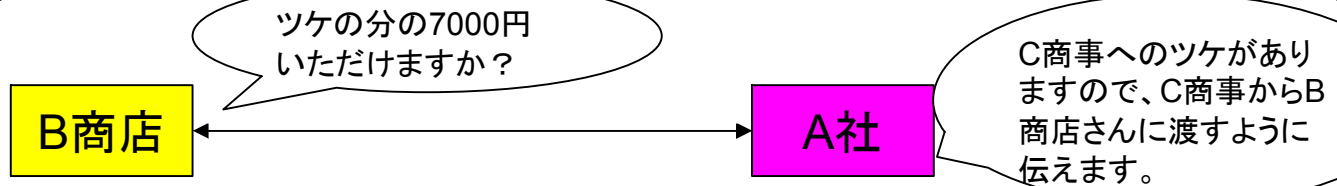


こうなったときに、A社・B商店・C商事がそれぞれどのような仕訳をするのかがポイントなんだ。

では、まずはB商店から。



# 3. 為替手形



B商店はかねてA社に商品を売上げた際の売掛金 ¥7,000を、A社振出、C商事引受の為替手形で受け取った。

(借方) **受取手形 7,000**      (貸方) **売掛金 7,000**

資産の増加

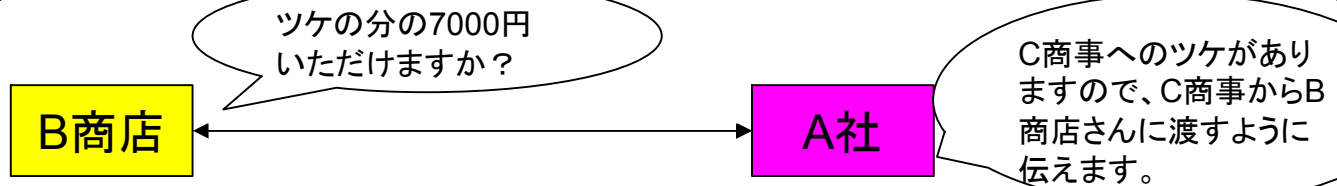
資産の減少

A社の代わりにC商事が払うことになったということだ。  
B商店にとっては、債権があるってことには違いはない。

次は、C商事の仕訳だ。



# 3. 為替手形



C商事は、仕入先A社より同社に対する買掛金¥7,000につき、同社振出、B商店受取、C商事宛の為替手形の引受を求められたので、これに応じた。

(借方) **買掛金 7,000**      (貸方) **支払手形 7,000**

負債の減少

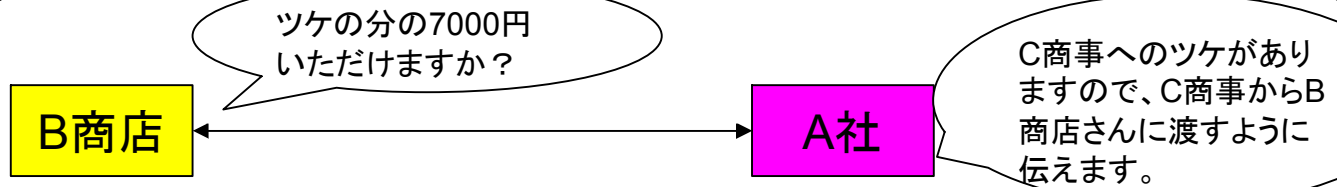
負債の増加

C商事からすれば、A社に払わなければいけなかった買掛金が、B社に払わなければいけない支払手形に代わったということだ。

最後に、A社の仕訳だ。



# 3. 為替手形



A社は、B商店へ買掛金¥7,000を支払うため、売掛金のある得意先C商事宛の為替手形を振り出した。

(借方) **買掛金 7,000**      (貸方) **売掛金 7,000**

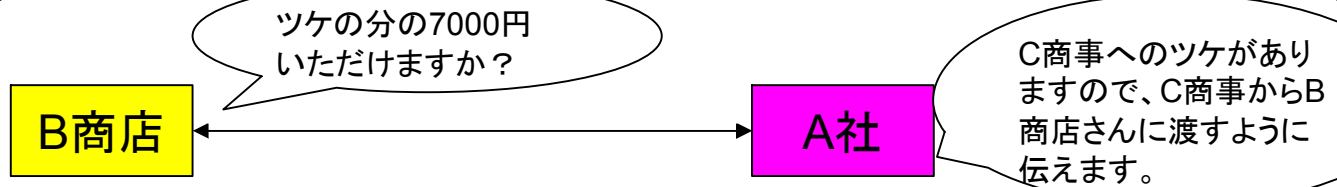
負債の減少

資産の減少

A社はC商事に代わりに代金を払ってもらうようお願いしたのだから、B商店に払わなくていい代わりに、C商事からお金をもらえないということだ。



# 3. 為替手形



さて、イメージは出来ただろうか？

取引の流れ自体は「動物の例」と同じなので、わかりにくければそれを見てよくイメージして欲しい！

では最後に、手形の裏書・割引について見ていこう。



# 3. 裏書・割引

まずは、裏書・割引について、ざっと説明しよう。

## 手形の裏書

手形債権(受取手形のこと)を、商品代金の支払などに充てるために、他の店に譲ること。

つまり、「現金」の代わりに「受取手形」で支払うということだ。

## 手形の割引

受取手形を期日前に現金化したいときに、利息を払う代わりに現金化してもらうこと。

利息分は「手形売却損」という費用勘定を使う。

具体的に見てみよう！



# 3. 裏書・割引

## 手形の裏書

B商店から商品 ¥100,000を仕入れ、代金は同額の手持ちのC商事振出、D社引受の為替手形を裏書譲渡した。

(借方) 仕入 100,000 (貸方) 受取手形 100,000

わざといろいろな名前を出して複雑にしてみたんだけど、考えるのは『自分はどうなったのか?』ということだ!

商品が増えたのは自分だから、借方に「仕入」が来る。  
また「裏書譲渡」とあるのだから、債権(よって資産)であった「受取手形」をお金代わりにして商品を購入したということがわかる。

「C商事振出」とか「D社振出」とかに惑わされないで!



# 3. 裏書・割引

## 手形の割引

A社は売掛金 ¥300,000の支払として受け取ったC商事振出、D社引受の為替手形を銀行で割り引き、割引料を差し引いた残額を当座預金口座に預け入れた。なお、割引料は ¥5,000であった。

(借方) **当座預金 295,000**      (貸方) **受取手形 300,000**  
**手形売却損 5,000**

さて、この仕訳も単純に、『自分はどうなったのか』と考えよう。  
受取手形を銀行に持って行ったのだから、その分の受取手形は無くなる。よって、貸方に受取手形が来る。  
当座預金に実際に振り込まれたのは利息を引かれた295,000円で、残りの5,000円分は利息。

こう考えればいいんだ。



# 3. 裏書・割引

今のような、[借方の勘定1つ－貸方の勘定1つ]で対応しない仕訳の考え方について、ちょっと触れておく。

(借方) **当座預金 295,000**      (貸方) **受取手形 300,000**  
**手形売却損 5,000**

今の説明では、  
受取手形→当座預金→手形売却損  
の順番で考えたけど、必ずしもこの順番で考える必要はない。

例えば、「実際に当座預金口座が増えた額はいくらだろう？」と考え始めても問題ないし、手形売却損の額は5,000円と決まっているのだからここから考えはじめても問題ない。

重要なのは、**自分でイメージできる考え方の道筋を立てること**なんだ！  
このことは非常に重要だ！  
というのも、仕訳の借方と貸方の合計は常に一致するからだ。  
つまり、自分のわかりやすい道筋で考えていく癖を付けると、「差額」を上手に使えるようになるからなんだ。  
今はよくわからないかも知れないけれど、今後とても重要になってくるはずだ。  
だから、丸覚えするのではなく、**納得してイメージできるようにしておいて欲しい！**



# まとめ

今日はここまで。  
それでは、今日のまとめをしておくよ。

## 1. 約束手形

振出人が名宛人に、手形に記した期日に手形に記した金額を支払うことを約束した証券

## 2. 為替手形

第3者に支払を依頼した手形

## 3. 手形の裏書・割引

裏書: 手形債権(受取手形のこと)を、商品代金の支払などに充てるために、他の店に譲ること。

割引: 受取手形を期日前に現金化したいときに、利息を払う代わりに現金化してもらうこと。



# 終わりに

お疲れ様でした！

為替手形がちょっと複雑だったと思うけど、よく試験に出るポイントなので、しっかりイメージできるようにしておいてね。

余裕があれば、テキストでしっかり復習するのが望ましい！

次回は「商品売買」について説明する。

どのような商売でも、基本はものを仕入れてそれを売ることなので、とても重要な分野だ！

それでは！



# 制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級  
<http://boki3.source-of-information.com/>  
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、  
[info@source-of-information.com](mailto:info@source-of-information.com)  
までお寄せ下さい。